

土木の日 DOBOKU DAY NOVEMBER 18

2025年度「土木の日」のご挨拶



池内 幸司
土木学会 第113代会長
(一般財団法人 河川情報センター理事長・東京大学名誉教授)

「土木の日」に寄せて ― 未来への礎を築くために ―

土木という営みには、「人々の暮らしを支える社会の基盤を築く」という本質が込められています。道路や橋、堤防やダム、上下水道などの社会資本は、私たちの生活を支えるだけでなく、産業や文化の発展、地域の持続的な成長を支える「礎」として、長い年月にわたりその役割を担ってきました。

近年、地球規模で進行する気候変動や自然災害の激甚化・頻発化、少子高齢化や人口減少といった社会構造の変化が、私たちの暮らしと社会基盤に新たな課題を提起しています。こうした変化に立ち向かうためには、従来の延長線上にある発想を超えて、多様な知恵を結集し、次代の社会を見据えた「新しい土木」の創造が不可欠です。

さらに、デジタル技術の発展や生成AIの登場により、社会の構造や運営のあり方が大きく変容しつつあります。土木の分野も、データサイエンスやロボティクスなどを活用し、より安全で強靱なインフラの構築と、効率的な維持管理へと確実に発展しています。同時に、災害時の迅速な対応や復旧・復興を支えるための情報共有、地域の合意形成を支援する可視化技術など、デジタルの力が人と人との協働を支え、社会を支える新たな基盤となりつつあります。こうした変化の中でこそ、技術の中心に常に「人」を据え、人間の安全と尊厳を守る視点を失わないことが、私たちに求められています。

私たち土木技術者は、未来社会のかたちを構想し、実装する存在でもあります。次世代の担い手たちが希望を持ってこの分野に飛び込み、誇りを持って活躍できるよう、社会との対話を重ね、土木の魅力と価値を積極的に発信していくことも、私たちの重要な責務です。

「土木の日」は、私たちの専門分野が社会と深く結びついていることを改めて認識し、その意義と使命を共有する日でもあります。この日に関連して全国各地で開催される講演会、パネル展示、見学会、体験イベントなどを通じて、土木が果たす役割や社会資本の大切さ、そして安全で豊かな暮らしを支える仕組みに関する理解を深め、未来の社会を共に考える契機となることを期待しています。

2025年度会長プロジェクト「カーボンニュートラルでレジリエントな社会づくりプロジェクト」

地球温暖化に伴う気候変動により自然災害の激甚化・頻発化など、国内外で深刻な影響が顕在化している。地球温暖化対策はもはや待ったなしの状況であり、2050年カーボンニュートラル（CN）に向けた取組を加速させる必要がある。

特に、国土・都市・地域空間と、そこで営まれる人々の暮らしや社会経済活動を支えるインフラとこれらのマネジメントは、CNの実現に向けて重要な役割を担っており、土木界は長期的な視点をもって、積極的にCNに貢献していくことが求められている。

このような中、「カーボンニュートラルでレジリエントな社会づくり」に向けて、以下のような取組を行う。

- ・ 2050年CNに向け、行政機関や企業等において様々な取り組みが進められているが、まちづくりや交通の効率化、インフラの整備や維持管理、さらには関連するエネルギー分野等において土木界全体で取り組むべき全体像を俯瞰的に捉え、提示する。
- ・ CNの取組をより一層加速する上で障害となっている課題を明確化し、その課題解決に向けた提言を行う。
- ・ 気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化等への適応策として、災害時のレジリエンス強化につながるCN等の取り組みについて提言する。

【土木の日共催団体】

日本建設業連合会、建設コンサルタンツ協会、セメント協会、電気事業連合会、日本橋梁建設協会、日本鉄道施設協会、日本道路建設業協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、日本埋立浚渫協会、全国上下水道コンサルタント協会、関東地域づくり協会